

2021年 新年のごあいさつ

副院長兼看護部長 久々湊 智子



2021年新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

1月16日武漢市渡航の神奈川県在住中国人男性の新型コロナウイルス感染症が初確認され、瞬く間に日本全国へと拡大されました。2月3日に横浜港に到着したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」では、712人がPCR陽性となって、10名の死亡者が生じました。

WHOは2月11日新型コロナウイルス感染症を（COVID-19）と名付けました。2月28日世界規模で流行する危険性について最高レベルの非常に高いと評価し、3月11日パンデミックの認識を表明しました。当院でも疑い患者が2月から入院され、対応を余儀なくされました。4月16日、安倍首相より緊急事態宣言が全都道府県に発令され、薩摩川内市でも7月4日に新型コロナウイルス感染者が確認されました。HCUを閉じ、感染棟対応看護師としてHCUのメンバーに続き、不安が大きいなながらも感染リスクと戦ってくれている看護師。また、その抜けた分の負担を快く引き受けてくれたスタッフの皆様には、感謝しかありません。本当にありがとうございます。

11月には新型コロナウイルスの変異種が見つかり、日本でも変異種が確認され、毎日過去最高の感染者と報道されています。私たちのやるべきことは、原点に返り、マスク（ユニバーサルマスク）、うがい、手洗い、消毒、換気、不要不急な外出をしない。

密閉、密集、密接をしないようにしましょう。

2021年の干支は「辛丑」。衰退や痛みが大きければ命の初動が大きくなり、芽吹きが大きければその分、激烈に枯れる。つらいことが多いだけ、大きな希望が芽生える年になることを示しているそうです。大きな希望の光が差し込むことを祈って！今年も宜しくお願ひします。





令和2年鹿児島県原子力災害時医療研修（協力機関向け医療）に参加して

手術室師長 宝 満

薩摩川内市は原子力発電所があるため、災害拠点病院として済生会川内病院があり、当院も協力機関としての役割を担っています。原子力災害医療を行う者としての観点から、

- ・放射線、放射線影響に関する基本的な知識の習得
 - ・原子力災害時の防護対策の理解
 - ・原子力災害医療に必要な放射線測定機器の取り扱い方法の理解
- を目標とした研修でした。



放射線事故や原子力災害は滅多におこる事ではなく、多くの人は被ばく医療の体験を得る事ができません。しかしながら、万が一の事象に対して十分な備えが重要であり、今回の研修はその一翼を担っています。原子力、放射線の事故や災害における看護支援や正確な情報発信のためにも、看護協会や多職種学会などの専門職団体との情報共有やネットワークの構築が大切であり、被災者や被災時の患者の命を守る事にもつながると感じました。

「第2回日本フットケア・足病医学会（九州・沖縄地方学術会）」に参加して



地域包括ケア病棟 濱 島

私はフットケア外来に関わっており、本学会の開催はとても楽しみにしていました。今回コロナ禍の現状でWebにて開催されました。学会の中で「おしゃれが好きな人が、転倒してしまい外出しなくなりました。」事例についてディスカッションがありました。Aさんが外の世界に再び触れるようになるにはどうしたら良いのか、ここはフットケアとフットウェアの出番ではないかと考えました。人は一生自分の足で歩いて過ごしたいものです。フットケアやフットウェアは、歩くためのお手伝いをする場だと思います。そのためにもっと自己学習を深め、患者さんに足の大切さを伝えていきたいと思っています。



日本自己血輸血学会 学会認定自己血看護師制度 資格取得について

外 来 奥

今回、学会認定の自己血輸血看護師制度の資格を取得するために必要な受講項目があり、オンラインでの参加を行いました。今年はコロナ禍の中、献血をする人が少ないという状況である事を知りました。ここにもコロナの影響が出ているのだと感じ、是非機会があれば輸血が必要な患者のために私も献血をしたいと思いました。

また、自己血の手技の実際や有害事象など学びました。安全に患者の血液を採取し、安全に保管、安全に投与する所まで何人ものスタッフが介入するため、連携が必要であることも学びました。必要な知識をしっかりと身につけなければならないため、とても大事な資格だと感じました。



看護協会主催

「鹿児島県看護職員認知症対応向上研修」を受講して

4階東病棟 猿渡

11/12～14に認知症対応能力向上研修を受講しました。研修を通し認知症だから伝わらない、せん妄だから抑制するなど、容易に対応している部分が院内でもあるように感じました。出現する症状には何かしらの理由がある事、状態を見極め対応していく事が大切だと感じました。スタッフが知識を深めていく事も必要だと思いますが、偏見を減らしていく事、情報共有し対象の特徴を捉えられるような環境作りを行い、看護に繋げていけるよう自分自身が行動に移していきたいと思っています。



「病棟ナースができる退院支援（応用編）」に参加して

PFM 森山



4月より、PFMへ配属になり知識を深めるために研修に参加しました。研修では、退院調整や退院支援について看護職として必要な知識と役割を学び、その人らしい生活支援の視点に立ち、病棟看護師が担う退院支援について学びました。病棟で働いていた時は、業務が優先で患者と退院後を見据えて深く関われなく、もどかしい気持ちで看護を行っていました。PFMに配属になってからは、入院前から患者・家族と面談を行い、思いや現在の状況などの情報を得ているため、病棟や多職種と連携を図り、カンファレンスを通して少しでも在宅での生活をその人らしく送れるように支援していきたいです。



日本看護協会主催「医療安全管理者養成研修」に参加して

感染管理認定看護師 手術室主任 長倉

私が医療人として務め始めた一昔前は、ミスは個人の責任として、とことん追い詰められたことを思い出します。今でも時折、その名残を感じることがありますが、人は誰でも必ず間違えます。今回、医療安全管理者養成研修にて、41時間にも及ぶeラーニング研修と集合演習を通して、医療を取り巻くさまざまな視点から、安全文化を浸透していくためには、人の特性を理解した上で組織として対策を講じていく必要性を改めて学びました。そして、RCAといった分析ツールを活用し、対策立案後はやりっぱしとならず、PDCAサイクルを回していくことが重要であることを学びました。



4階東病棟主任 山村

昨年度、eラーニングプログラムを受講し、今年度、集合研修としてRCA実践研修に参加しました。2事例の事例検討（①認知症患者の転倒事例、②輸血製剤の誤認患者投与）を行いました。RCA分析手法を用いる事で根本原因となりうる行動（患者や医療者側の）が抽出でき、改善策を講じることができると感じました。自部署ではインシデントが発生した際にカンファレンスを実施していますが、対策を立案してもそれを周知や評価することが不十分であると考えます。同じような事例が発生しないよう、事例検討することが患者の安全を守り医療者側のリスクに対する意識向上に繋がると考えます。

日本看護協会主催「認定看護管理教育課程：セカンドレベル教育」を受講して

教育指導担当兼師長室付師長 田口

看護管理者とし基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得することを教育目的と掲げられ、鹿児島県看護協会主催にて令和2年9月1日～11月10日のうち31日間（183時間）受講しました。28名の受講生とともに、これまでの自己の実践の振り返りや、これから取り組むべき課題について現状分析し改善に向けての実践計画立案・発表を行いました。研修では、自分の意見を述べ・他者の意見を聞き、思考することの繰り返しで、日々多くの学びができました。到達目標1.組織の理念と看護部門の理念の整合性を図りながら担当部署の目標を設定し、達成に向けた看護管理課程を展開できる。2.保健・医療・福祉サービスを提供するための質管理ができる。であり、視野を広げ、論理的思考をもって取り組んでいきたいと思っています。



今回、ミニナラティブ看護体験についての原稿依頼を知った時に、何を書くかすごく悩みました。日々、看護している中で思う事や感じる事は多々ありますが、一番思い出に残っている患者さんがいます。

看護師2年目。1年間をかけケーススタディを行うことになりました。心不全で入退院を繰り返している患者。独居で内服自己管理中でありましたが、飲み忘れや間違いがありました。そこで私は、退院後の内服自己管理についての看護をしました。患者と向き合う中でより良い方法を見つけ、指導者にもアドバイスをもらいながら、内服板というものを作り上げ、正確に服用できるようになり、患者も私もすごく喜んでいました。数か月後、再び心不全が悪化し入院してきました。その時、家族が内服板も持ってきており、患者が大切にして服薬も正確にできていたという話を聞きました。患者は治療を行いました、助かりませんでした。最後まで内服板のことを話し、私に感謝の言葉を繰り返されました。その時はすごく胸が熱くなり、今でも思いが溢れます。

患者と出会い、看護師としての本当に必要なことや思いを改めて再確認でき、今後も看護師生活の中で強く思い活かしていきたいです。



今回、原稿の依頼があった際に、自分のマイブームって「何かな?」と色々と考えました。考えた結果「継続」でした。

私には今、4歳の娘がいます。その子が生まれた年に始めた事が2つあります。「空手」と「自転車」です。どちらも周囲にしている人がいて、「ほんのちょっとした興味」だけで始めた事でした。運動は苦手、努力も好きでない自分なので、途中何度も練習をしなくなり「やめよう」とおもった事もありました。ですが、コツコツと続けて4年近くになります。今では空手は初段を取得、自転車は空いた時間を探し乗車。「やめよう」と思った日々を振り返りながら、楽しい日々を送る事が出来ています。これも「継続」していたことが一番大きな事だと思っています。そして、これからも娘の成長をみながら続けていけたらと思っています。

※是非皆さんも一緒に空手・自転車してみませんか? 楽しいですよ～
興味がある時は声をかけて下さい。



編集後記

今年度も残り2か月となりました。自己の目標達成状況はいかがでしょう。2月は年度末評価となります。次年度の目標へとつながっていけるといいですね。(田口)

